

Aging Dialog Between Switzerland and Japan June 30, 2014

高齢化時代へのダイアローグ スイスと日本 2014年6月30日

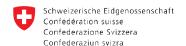
13:00-17:30



Roppongi Academy Hills, Auditorium 六本木アカデミーヒルズ、オーディトリアム

Japanese-English interpretation/日英同時通訳付き

Pre-registration is required 事前登録をお願いいたします http://aging.stofficetokyo.ch







Agenda

12:30		Door opens	
13:00	H. E. Mr. Urs Bucher	Greetings by the Ambassador of Switzerland to Japan	
	Dr. Fabrizio Arigoni	Head of Nestlé Research Center Tokyo & Beijing	
Session 1 Health Policy in Aging Societies			
13:05	Dr. Nobuhisa Asano	A distinctive feature of the healthcare system in Switzerland	
13:40	Prof. Shuichi Nakamura	Aging and social security in Japan	
14:15	Prof. Kenji Shibuya	Economic impact of disease and risk factors in an aging society	
14:50		Coffee Break	
Session 2 Challenges in an Aging Society and Key Factors for Healthy Aging			
15:20	Prof. Hiroshi Shiokata	Nutrition and healthy aging	
15:55	Prof. Shuzo Kumagai	Effects of physical activity and inactivity, and physical fitness on Alzheimer's disease or cognitive decline	
16:30	Dr. Mihoko Otake	Cognitive activity support for older adults based on functional quality-of-life model	
17:05	Dr. Fabrizio Arigoni	Wrap-up	
17:30		End of event	

Contact:

Dr. Matthias Frey
Head, Science & Technology Office Tokyo, Embassy of Switzerland
tok.science@eda.admin.ch Tel: +81-3-5449-8400

Speakers/講演者

Dr. Nobuhisa Asano/ 浅野信久



Visiting Researcher on Public Health Graduate School of Medicine The University of Tokyo 東京大学大学院 公衆衛生学教室 客員研究員

筑波大学大学院医学研究科社会医学専攻修了(医学博士)。 大和証券グループ・リサーチ部門等で産業・企業調査に従事。 スイスを含め、国内外の医療政策や医療産業の動向を調査 研究。2008年にスイスでローザンヌ大学医療政策・経営学 国際エグゼクティブコース修了。2014年3月末まで2年間、 公益財団法人国際金融情報センター欧州部長を務める。

Prof. Shuichi Nakamura/ 中村秀一



Graduate School of International University of Health and Welfare. President, Forum for Social Security Policy

1973年、厚生省入省。厚生労働省老健局長、社会・援護局 長、社会保険診療報酬支払基金理事長を経て2014年2月 まで内閣官房社会保障改革担当室長。

医療介護福祉政策研究フォーラム 理事長、 国際医療福祉大学大学院教授

Prof. Kenji Shibuya/ 渋谷健司



Dept. of Global Health Policy, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo 東京大学大学院 医学系研究科 国際保健政策学教室 教授

東京大学医学部医学科卒。同付属病院医師(産婦人科)など として勤務後、米ハーバード大学リサーチ・フェロー。同大学 より公衆衛生学博士号を取得。その後、帝京大学医学部産 婦人科助手、衛生学公衆衛生学講師、世界保健機関(WHO) シニア・サイエンティスト(保健政策のエビデンスのための 世界プログラム)、WHOコーディネーター(評価・保健情報 システム/保健統計・エビデンス)を経て、現職。Global Burden of Disease 2010研究コアメンバー、GBD科学評議 会、WHO保健統計専門家委員などを務める。

Prof. Hiroshi Shimokata/ 下方浩史



Graduate School of **Nutritional Sciences** Nagova University of Arts and Sciences 名古屋学芸大学大学院

栄養科学研究科 教授

名古屋大学大学院博士課程終了(医学博士)。米国の国立 老化研究所(NIA)客員研究員、同客員科学者、広島大学 原爆放射能医学研究所 疫学社会科学研究部門、国立長寿 医療研究センター 疫学研究部長、同予防開発部長などを 経て、2013年より現職。

Prof. Shuzo Kumagai/ 熊谷秋三



Laboratory of Health and Exercise Epidemiology, Graduate School of Human-Fnvironment Studies Kyushu University 九州大学

健康・運動の疫学研究室教授教授として渡航した。

筑波大学大学院体育学研究科 健康教育学専攻修士課程 終了。佐賀医科大学などを経て、2003年より九州大学健康 科学センター教授、2012年より健康科学センター長、翌年 より基幹教育院教授。文部省長期在外研究員としてスウェー デン・ヨテボリ大学医学部で出張研究に従事したほかハン 基幹教育院・人間環境学府 ガリー共和国・セメルバイス大学体育スポーツ科学部招聘

Dr. Mihoko Otake/ 大武美保子



Dr. Mihoko Otake Graduate School of Engineering, Dept. of Mechanical Engineering Chiba University 千葉大学大学院工学研究科 人工システム科学専攻 機械系コース 准教授

2003年、東京大学大学院工学研究科修了博士(工学)。認知 症の祖母との会話をヒントに、写真を見てほのぼの会話を する共想法を考案。2007年、研究拠点ほのぼの研究所を設 立し、翌年NPO法人化、代表理事に就任。2010年より、JSTさ きがけ「大規模会話データに基づく個別適合型認知活動支 援」研究代表。2012年、スイス連邦工科大学チューリッヒの 客員研究員として在外研究。

プログラム

12:30		開場	
13:00	ウルス・ブーヘル ファブリツィオ・アリゴニ	ご挨拶 駐日スイス大使 ネスレ日本株式会社 ネスレリサーチセンター東京&北京 所長	
第1部 高齢化社会における健康関連政策			
13:05	浅野信久	特色あるスイスの医療制度について	
13:40	中村秀一	日本の高齢化と社会保障	
14:15	渋谷健司	高齢化社会における疾病および健康の危険因子 の経済的インパクト	
14:50		コーヒーブレイク	
第2部 高齢化社会の課題と 健康長寿社会に重要なファクター			
15:20	下方浩史	栄養と健康長寿	
15:55	熊谷秋三	アルツハイマー病、認知機能低下に関する身体 活動・不活動および体力の影響	
16:30	大武美保子	機能的生活の質モデルに基づく高齢者の認知 活動支援	
17:05	ファブリツィオ・アリゴニ	まとめ	
17:30		閉会	

連絡先:

マティアス・フレイ スイス大使館 科学技術部 部長 tok.science@eda.admin.ch Tel: +81-3-5449-8400